

牧師所感：

転ぶ

「転ぶ」というタイトルは、日本の国民的詩人 谷川 俊太郎氏の詩から借用した。「転ぶ」は 朝日新聞 文化欄（2023. 12. 17）に掲載された詩である。谷川氏は 1931 年生まれである。

転ぶ

立ち上がるつもりで 転んだ
転んだら初めから 転ぶつもりだったと思いたくなった

床に横たわっているのは 立っているより自然だ
天井は昨日と同じ天井である 違う天井でもいいのにと思う

いやいややはり見慣れた天井がいい と思い直す
折角横になっているのに 小便したくなった

立ち上がって便所に行くのを 想像する
楽しい想像ではないが 取り立てて嫌でもない
ピンポン と玄関のチャイムが鳴った
立ち上がるきっかけが増えた 待っていた艶書かもしれない

さて 上の詩を読んで 一人で何回も笑った。そして頷いた。谷川氏は 私より二つも年上の兄貴分だ。転ぶのも当然だ。昨年（2023）に 私も 何回も転んだ。大事な顔も傷を負ったが、大事には至らなかった。よろめいて転んだとは言っても みっともなかった。谷川氏は 転んだ後、「転んだ 転んだら初めから転ぶつもりだったと思いたくなった」と。矢張り詩人だ。詩の全文を掲載した。

さて どうだろう。年老いて転ぶのは みっともない仕草か？ 転んだ後、「転ぶつもりだったと 思いたくなった」に肖る思いだ。

ところで キリスト者でありながら、決して転んではいけない人が、いとも簡単に転ぶ世の中である。コロナ禍で 礼拝に制限が宣告されると、たちまち信仰を捨てて 転ぶ信徒が いかに多いことか。韓国の教会の危機でもある現状を 憂うのである。

だが 能登半島の地震によって、大勢の人々が災難に遭っている時、韓国の宣教師達が、逸早く 支援の手を伸ばして奉仕したことは 幸いである。

神よ、災難に遭っている人々を 助け給え！！